

平成27年度(第70回)文化庁芸術祭協賛  
平成27年11月舞踊公演

# 舞の会

京阪の座敷舞

京都・大阪の花街を中心に、舞い、伝えられてきた「座敷舞」は、人情の機微や四季折々の情景が繊細な技法によって描き出され、その诗情豊かな独特の美の世界が大きな魅力です。上方を代表する四流(井上・榎茂都・山村・吉村)の舞い手が国立劇場に会します。長い歴史の中で育まれ、伝えられてきた日本の伝統文化をご堪能ください。



## 「1時の部」

地唄 珠取海女 井上安寿子  
自らの生命を顧みない海女の母性愛の劇的な描写が心を打つ人気曲。井上安寿子は井上八千代の長女で将来を嘱望される若手の一人です。

地唄 袖香炉 榎茂都梅衣華  
静謐さの際立つ、しんみりとした曲調の中にほのかな華やかな匂やかな風情のある追善曲。榎茂都梅衣華は京都・東京で精力的に活動しています。

上方唄 大津絵 山村若千也  
上方の座敷の雰囲気伝える上方唄の小品二題を続けて上演します。山村若千也は大阪北新地で十三野(とみの)の名で活躍しています。

地唄 桶取 井上かづ子  
壬生狂言に取材した枯淡な味わいのある名曲。白拍子の捧げる水桶をモチーフに、男女の恋慕と嫉妬が描かれます。井上かづ子は京舞井上流の重鎮です。

地唄 道中双六 吉村輝章  
東海道五十三次の絵双六を題材にした洒落た味わいの作品。京から江戸へと辿る宿場や名所が詠い込まれます。吉村輝章は上方舞吉村流の六世家元です。

「地方」富山清琴/菊原光治/井上満智子・松島弘美/松浪千壽ほか  
「囃子」藤舎呂浩連中



## 「4時の部」

地唄 浪花十二月 吉村千比呂  
正月から始まる大阪の年中行事や風物が綴られています。吉村千比呂は四世家元吉村雄輝に師事した舞踊家で、「舞の会」には久しぶりの登場です。

地唄 水鏡 榎茂都梅咲弥  
静かで澄んだ水面を鏡に見立てて、恋の悩みを綴った上方舞の情緒豊かな艶物です。榎茂都梅咲弥は艶やかな容姿が魅力です。

地唄 山姥 吉村ゆきその  
古典芸能の代表的な主題の一つで、山姥の山めぐりが眼目です。今回は「待つ宵」からの上演。吉村ゆきそのは吉村流の重鎮です。

地唄 放下僧 山村友五郎  
小切子を打ち合せながら歌った中世の放下(大道芸人)の歌謡がもとと言われます。山村友五郎は山村流六世宗家です。

地唄 虫の音 井上八千代  
虫の音ひびく夜に亡き面影を慕う心をうたった曲です。井上八千代は京舞井上流の五世家元。今年、重要無形文化財保持者(人間国宝)の認定を受けました。

「地方」富山清琴/菊原光治/井上満智子・松島弘美/松浪千壽ほか  
「囃子」藤舎呂浩連中



平成27年11月21日(土) 午後1時/4時開演 [字幕表示がございます]

●入場料金(全席指定) 6,200円/学生 4,300円 1時の部・4時の部セット料金 11,300円 ※同時購入の場合のみ

●予約開始=10月11日(日) 午前10時~ [インターネット] [電話] 国立劇場チケットセンター (午前10時~午後6時) パソコン <http://ticket.ntj.jac.go.jp/> スマートフォン <http://ticket.ntj.jac.go.jp/m>

●窓口販売開始=10月12日(月) (チケット売場 午前10時~午後6時) ※窓口販売用に別枠でのお取り置きはございません。  
●プレイガイド チケットぴあ 0570-02-9999 (PC・携帯) <http://pia.jp/>



半蔵門 国立劇場 小劇場  
〒102-8656 東京都千代田区隼町4番1号  
03-3265-7411(代表) <http://www.ntj.jac.go.jp/>

国立劇場 あぜくら会

入会受付中! チケットの先行予約・割引・イベント・会報誌などの特典満載!  
お問い合わせはあぜくら会事務局 03-3264-0555 (平日10:00~17:00/土日祝日年末年始7:14) まで  
詳しくはあぜくら会HP <http://www.ntj.jac.go.jp/>